

# 令和7年度 滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議 開催報告

日時：令和7年9月22日(月)13:00～16:00  
場所：滋賀県立県民交流センター大会議室(ピアザ淡海3階)  
参加者：85名  
コーディネーター：一般社団法人 FEEL Do 代表理事 楽原 英文氏  
報告者：きぬがさ作業所 所長 堀尾 毅氏  
災害 NGO 結 代表 前原 土武氏  
行政説明：滋賀県知事公室防災危機管理局 山本 雅貴 氏  
滋賀県健康医療福祉部健康福祉政策課 森 彩花 氏

## 1. 開催内容

### <13:00～13:10 開会・オリエンテーション>

司会:滋賀県社会福祉協議会 山田参事  
開会挨拶:災害時要配慮者支援ネットワーク会議  
会長 市川 忠稔 氏



### <13:05～13:30>

#### 行政説明「滋賀県における災害時要配慮者支援対策について ～個別避難計画等の現状と災害対策基本法等の改正～」

説明者:滋賀県 防災危機管理局 主事 山本 雅貴氏  
滋賀県 健康福祉政策課 主事 森 彩花 氏

#### 「滋賀県における災害福祉支援の構想について」

説明者:滋賀県社会福祉協議会  
事務局次長 高橋 宏和



### <13:30～14:40 実践報告>

#### 「能登半島地震被災地における福祉支援」

コーディネーター:一般社団法人 FEEL Do  
代表理事 楽原 英文 氏  
報告者: きぬがさ作業所 所長 堀尾 毅 氏  
災害 NGO 結 代表 前原 土武 氏

◇堀尾氏より障害者福祉事業所支援活動について、前原氏より地域・ボランティア活動支援について、それぞれ現地での実践報告をいただく。



<14:40~14:50 休憩(場面転換)>

<14:50~15:55 グループディスカッション>

「災害時に生きる包括的な災害時の福祉支援体制を考える」

コーディネーター：一般社団法人 FEEL Do 代表理事 栗原 英文 氏

◇栗原氏による災害福祉体制についての導入講義の後、各グループで滋賀県における災害福祉支援の構想について、それぞれの立場から意見を交わした。



<15:55~16:00 事務局からの案内・閉会>

◇えにしの日案内、アンケート回答のお願い。

開会挨拶：災害時要配慮者支援ネットワーク会議 副会長 堤氏

## 2. 情報保障の設営の様子



★必要な情報保障は、出欠報告提出時の希望と例年の参加者情報から有無を確認。今回は要約筆記とヒアリンググループ、盲ろう者介助・通訳、手話通訳者を手配。

★ヒアリンググループは会場の音声ジャックを借用するため、予約時に依頼を。  
音声確認には聴覚センター貸出しのループテスト用イヤフォンが必要。利用者には開演15分前までに来場いただき音量のチェックに協力いただくこと。

★手話通訳が入る際は、客電を落とすすぎないように注意。

★登壇者にはゆっくりはっきり聞き取りやすい話し方を願います。

★上の写真にはないが、電動車いすの参加者にはページめくりの補助が必要。

その他 ★ロータリーの身障者用駐車場は本人運転時に限る。事前に車のナンバーと到着時間を確認し、会場にも連絡。

所感(山田)

所感(青谷)

- ・ DWAT からの参加者15名を含め、参加者は 85 名。登壇者、通訳者、記者、スタッフを含めると会場内 112 名となり、参加者にテーブルの端席に座っていただくなどの対応が必要であった。(22 グループまでの配置が限度と思われる。)
- ・ 情報保障の観点からこの会議の当日資料はもっと早く準備したい。事前の資料確認ができないと通訳者が専門的な話に対応しづらいとのこと。また、事前にお願ひしたものの、通訳者や当事者のアンケートからも、登壇者が早口で支障がある旨指摘があったので考慮いただきたい。